贈る言葉（ことば）

俊介　君へ　　祖父　安宏より

希望の高等学校へ入学できたことをお祝いいたします。そして更なる躍進を期待します。この日までしてきた努力は君の将来に立派な勲章となるでしょう。

やれ打つな蠅（はえ）が手をする足をする　　小林　一茶

朝顔につるべ取られて貰い水　　加賀の千代

この二つの俳句は江戸時代に作られたものですが現代の世の中にも又世界的にもヒューマニティの高い人類を超えた作として有名な句です。ユーモラスな表現の中に心暖まる思いがこもっております。

この二つの俳句の中に込められた崇高な愛情は今の君には理解することは難しいことだと思いますが、君が大人（おとな）になるにしたがって段々と分かってくれることと思います。

更に次の言葉も今は理解し得なくとも君が社会の荒波に揉まれていくうちに理解できることとして書き残しておきます。

箱根山、籠（かご）に乗る人、担（かつ）ぐ人、その又草鞋（わらじ）を作る人、　作者不明

袖に涙の掛かるとき人の心の奥ぞ知らるる、　作者不明

この二つの言葉は君の曾祖父中村家十二代当主安久理（あぐり）即ち私（祖父）の父に当たる人が良く私に聞かしてくれた言葉です。

最初の言葉は上を見れば切がなく、下を見ればこれ又切がなく人間は中道を歩めと言う教えです。立身出世、栄達を望まず自分に与えられた身分を守り一歩一歩確実に歩けと言うことだと私は理解しております。

次の言葉は自分が順調に歩んでいるときは分からないことも不遇に陥ったときに周囲の人々はどのような態度で接してくれるであろうか、その時に初めて人の